

令和7（2025）年度 家庭教育オピニオンリーダー研修⑤ 実施報告

実施日：令和7（2025）年10月2日（木）

今回は、主会場である総合教育センターと3つのサテライト会場（芳賀庁舎、那須庁舎、安蘇庁舎）をオンラインでつないで研修を行いました。

○ 講話「地域で親の育ちとともに子どもの成長を支えよう」

九州女子短期大学子ども健康学科 教授 宮嶋 晴子 氏

はじめに、家庭教育支援者から寄せられる主な悩みとして3つの課題が提示され、それらの解決につながるような多角的な視点が示されました。支援の対象者は親（保護者）であり、親理解を前提に「下に立つ」位置から親の育ちを支えることを強調されました。続いて、福岡市内の8人の親の追跡調査から、子育てが楽しく充実したものになるための4つのプロセス（①家から一歩踏み出す、②人と語り合う、③子育てを営む主体としての意識が高まるとともに地域をつくる主体に目覚める、④ネットワークの広がりや深まり）が紹介されました。

宮嶋氏の講話を通じて、親の育ちを支える家庭教育支援の在り方について多くの示唆が得られ、受講者は支援者としての役割や地域での支援のポイントを学ぶことができました。



○ グループ協議「家庭教育支援の取組に向けて①」

総合教育センター職員

はじめに、これまでの研修で学んだ家庭教育の現状や支援の取組、支援に活かせる知識・技術について振り返り、内容を整理しました。続いて、今後自分たちが取り組めそうな支援について協議を進めるために、進め方やポイント（課題の整理、実現可能性など）を確認しました。

協議では、受講者がまず個人用ワークシートに自分の考えを整理した後、グループ内で家庭教育や子育ての現状と課題を共有しました。そして、それらの課題の解決を目指すために、どのような取組が可能かについて意見を出し合いながら、取組案を作成しました。どのグループも、取組のねらいや主要内容、期待される効果など、発表に向けた案の概要をまとめることを目標に、協議を進めることができました。

次回は、案の細部についてさらに協議を進め、グループごとにまとめた内容を発表する予定です。どのような発表になるのか、今から楽しみです。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・宮嶋先生の話の中で4つの学びの段階が示されており、家庭教育を推進する上でとても参考になりました。家から一歩踏み出す力をどう支援するか、地域や環境などを考え実践していければと思います。
- ・印象的だったのは、「上から目線ではなく、後ろから支えていく」という言葉でした。知識を身に付けていても、それを押しつけずに声かけをしていきたいです。親が主役だということも忘れずに支援をしていきたいと思いました。
- ・家庭教育を通して、支援するだけではなく、保護者が自立して家庭教育を行えるように支援をするのが理想だと思いました。
- ・保護者がサロン等に参加することで、つながりが広がり、悩みを共有する仲間ができ、安心して子育てに励むことができるようになるのではないかと感じました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:sko-syougai@pref.tochigi.lg.jp